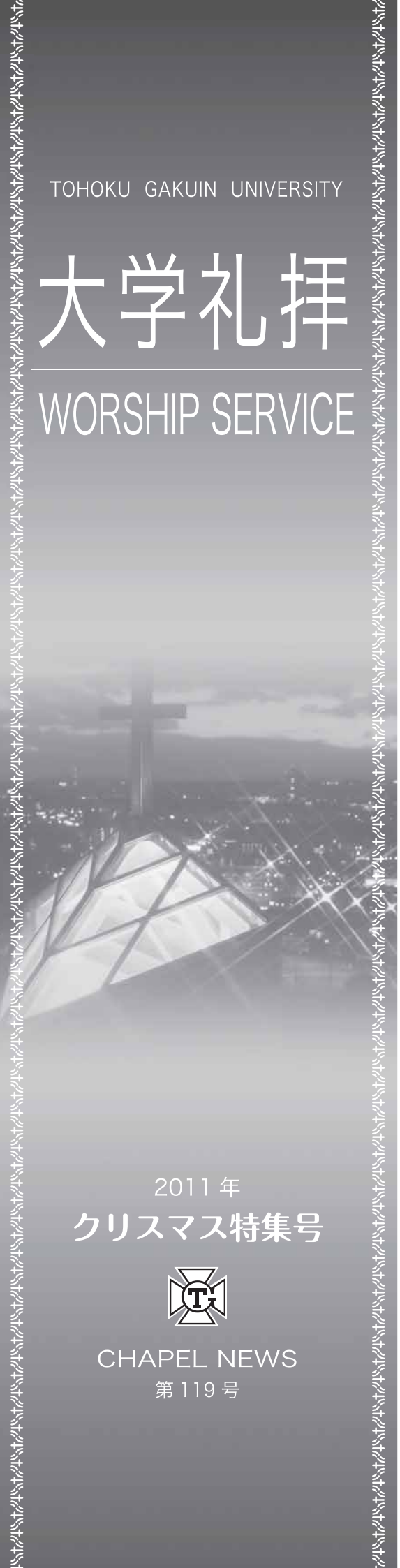


大学礼拝

WORSHIP SERVICE



2011年
クリスマス特集号



CHAPEL NEWS
第119号

巻頭言

クリスマス

- 新たなロール・モデルの誕生 -



宗 教 部 長
佐々木 哲夫

無意識のうちに、自分のためにロール・モデルを選び、それをお手本にすることがあります。例えば、サークルやゼミの尊敬する先輩を対象に選び、ああなりたいたいと願って技術や行動を模倣したりします。技術や行動だけでなく人生の生き方を考えるときにも、ロール・モデルを選び、その影響を受けることがあります。聖書にも多くのロール・モデルが記載されています。その中の一人がコヘレトです。

コヘレトは、天の下に生きる短い一生の間、人間は何をすれば幸福になるのかを見極めようとして、天の下に起こることをすべて知ろうと熱心に探究し、知恵を尽くして調べました。例えば、庭園や果樹園を数々造らせて事業を興し、エルサレムに住んだ者のだれよりも多くの牛や羊を財産として所有して、また、だれにもまさって知恵と知識を深めて学問を極め、さらには、快楽を追い愉悅に浸る生活を送ってみたのです。とうとう彼は、エルサレムに住んだ者のだれにもまさって大いなる者となり栄えたのだ

です。しかし、彼は、どれも空しく風を追うようなことであつたと述懐しています。

私たちは、それぞれが思い描く希望を実現するために、就職したり進学したりします。経済的に自立し、託された社会的役割を担いつつ、幸福実現のために苦勞をいとわず努力する人生の日々を送ります。それは、まるでコヘレトが歩んだ道を後追いつているかのようなのです。ですから、コヘレトは私たちの人生のロール・モデルであると言えます。その彼が最後に次のような印象深い言葉を述べています。

すべてに耳を傾けて得た結論。
神を畏れ、その戒めを守れ。
これこそ、人間のすべて。

(コヘレト二章三節)

コヘレトが導き出した結論は、サタンの誘惑に直面したときのイエス・キリストが語った言葉と共鳴し、新たな響きをもって私たちに臨んできます。

誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエスはお答えになった。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と書いてある。」

(マタイ四章二〜四節)

誘惑の最後に、イエス・キリストは誘惑する者に対し次のように宣言します。

退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。

(マタイ四章一〇節)

クリスマスは、イエス・キリストの誕生をお祝いするときです。すなわち、新たなロール・モデルの誕生をお祝いするときなのです。

私がさびしいときに



理事長
平河内 健治

三月十一日の東日本大震災直後に忽然として通常のコマージュが消えてしまったのには驚きました。代わりに頻りに流されたのが、かつて「公共広告機構」と言い、今では「ACJAPAN」と呼ばれる公益法人のコマージュでした。三年前に私が理事長になったばかりの時に、東北学院の建学の精神と価値観を共有すると考え、地域との連携策の一つとして、ACの会員に登録をしてもうしました。

と心遣いによる気持ちと愛の繋がり東北学院が創立以来大事にしてきているものです。被災者は互いに思いやりと心遣いから整然とした助け合いの生活ができました。これからの東北学院の復興のためにも欠かすことのできない精神や生活姿勢であります。金子みすずという女流詩人の「こだまでしょうか」という私の大好きな詩も震災の後に、AC提供で電波に乗りました。佼成出版社発行の矢崎節夫著『ことばの花束 金子みすずのこころ』という本がありますが、これを機会にもう一度その本を読み返したところ「さびしいとき」という詩に出会い、ことばの力を感じ勇気付けられました。次のような詩です。

「私がさびしいときに、よその人は知らないの。」の中の「よその人」というのは、自分の思いや理想のみに関心があり、近くに居る隣人の痛みには鈍感か不感症の人です。「私がさびしいときに、お友だちは笑うの。」のお友だちは、話は聞いてくれはしても自分の方も重くなり、その重さを背負いきれず、笑ってごまかし、相手を元気付けようとしてます。お母さんは心配になり、いつもよりやさしくはしてくれませす。しかし、さびしさをさびしさとして受け入れてくれるのはみすずにとっては仏さましかいません。そのことに気付いた時、わかってくれないよその人も、笑う友だちも、やさしいお母さんの気持ちも受け入れられ、人間関係を越えたところから赦しが与えられます。私には金子みすずの仏さんはキリストとダブって見えてきます。「ヨハネによる福音書」第五章一節から九節には、三十年も病気で苦しんでいた人間が登場します。ペトサダの池の水が動いたときに、最初に入る者の病気が癒されると信じて他に多くの病人が横たわっています。しかし、素早く動けない自分を手伝ってくれる人は誰もいませんでした。彼は人々への恨み辛みと妬み、そして

憎しみと孤独の中で自らの心を閉ざしておりました。主イエスは彼に「良くなりたいか」と言います。病人は答えます。「主よ。水が動くとき、わたしを池の中に入れてくれる人がいないのです。わたしが行くうちに、ほかの人が先に降りて行くのです。」やつと自分の気持ちを訴えることのできる方に出会えました。男はイエスの「良くなりたいか」という言葉から自分自身もつ「良くなりたか」という自身の気持ちとの共感と哀れみを得て、イエスへの信仰へと心が動き、人々の無関心や心の冷たさへの恨み辛みから解放されます。金子みすずの「さびしいとき」も人間関係によってはどうしても癒しが得られない時です。キリストと共にあるとき、キリストが共に居てくれる時に私たちの生きる力が推進されます。御子の誕生を祝うクリスマスの際に、私たちの真の慰めと力となられるイエス・キリストが私たちの心の中にも誕生し、イエス・キリストとの出会いが生まれることを祈りたいと思います。

「北欧のクリスマス」



学院長・大学長
星宮 望

クリスマスの行事は世界中で行なわれ

ていますが、皆さんご存知の通り、十二月といっても地球にはそれぞれの季節があり、日本のような冬の季節ばかりではありません。南半球では、真夏のクリスマスになりますし、地域によってそれぞれに特色あるクリスマスがもたれています。言い換えれば、それぞれの地域風土にそった主イエス・キリストのご生誕を祝う行事があると思えます。その一例として、日本からはるか離れた北欧のクリスマスとその季節の行事・風習について少し紹介しましょう。かなり古い話になりますが、私は、一九七五年五月から一九七六年七月にかけて、十四ヶ月をスウェーデンで暮らしました。これは、日瑞基金 (Japan-Sweden Foundation) の派遣研究員として、毎年一名日本からスウェーデンに派遣される研究員の選考に合格して、家族四人で滞在することになった

ものです。そのいきさつの一部は、東北学院大学の刊行印刷物である、ウーラノス Vol.26 (二〇〇七年一月号) の「スウェーデンの運転免許証―国民番号など―」や、ウーラノス Vol.30 (二〇〇九年七月号) の「常識のちがいをこえて」などに記しましたので、まだ読んでいない方は目を通していただきたいと思います。

皆さんには、北緯六〇度の地域の冬の状況を思い浮かべることは簡単ではないと思います。日本の周辺で見ますと、北海道のはるか北にあるカラフトの最北端部のさらに北側になります。メキシコ暖流の影響によって、スカンジナビア半島はどのように北にある割には温暖な気候がなんとか保たれていて人があまり苦勞なく生活できる環境にあります。私の滞在していた Uppsala は、ストックホルムの約八〇 km 北にある古都でした。Uppsala 大学は、一四七七年に創立されましたので、私が滞在した一九七六年には、来年五百年記念式を行なうということでした。そして、そのすぐそばにある、教会は、四三五年に完成した北欧最大の教会で、しかも北欧最古の歴史をにじませるものでした。十二月のクリスマスになると、歴史に彩られた各種のクリスマス行事が行なわれ、さすがに古くからのキリスト教国であるの思いを深くいたしました。教会での行事に関

することは、このほかにも種々伝えられていっていると思いますので、ここでは、この季節における北欧(特にスウェーデン)における行事のいくつかを紹介いたします。まず、十二月月上旬におけるスウェーデンの最大のイベントは「ノーベル賞授賞式」です。世界中からの膨大な超一流の研究者の業績に関する推薦を、数年間かけて審査して、その結果を世界中に発表します。その中心に位置するのが、Uppsala 大学の研究者・研究組織です。私は、たまたま、Uppsala 大学における外国人研究者として滞在しておりましたので、一九七五年のノーベル賞授賞式へ招待され、参列することができました。このイベントでは、単に式典が行なわれるだけでなく、その前後に、それらの研究者の研究成果に関する国際的なシンポジウムや講演会が関連大学で行なわれます。私も、ウプサラ大学で開催されたその年のノーベル物理学賞の受賞者の講演会にも参加することができました。

クリスマスの頃になりますと、北極圏に近いこの地方では、冬が長くなります。ストックホルムやウプサラの周辺でも、真冬には、朝明るくなるのが一〇時頃で、午後には暗くなるのが十四時頃になります。従って、幼稚園に行く児童が、暗い道を歩んで幼稚園に行き、薄暗くなった道を歩んで幼稚園から帰ることになります。このようなことは、日本の人には感覚的に理解で

きないと思います。ともあれ、このように夜が長くて憂鬱な季節を過ごすために、北欧の人々は種々の工夫を凝らしています。クリスマスの季節になると、暗くなった道路に面した、家々の窓辺に、花飾りをともなったローソクが灯されます。これが、各家庭に一斉に灯されますと、なんともいえないような温かい雰囲気周囲に漂います。そして、各家庭から、小学生くらいの女の子が、白い装束の頭にローソクの冠をつけて、「サンタルチア(ルシア)」の歌を歌いながら各家庭を回ります。この歌を「ルシヤ祭り」と呼んでいます。この地方の最も有名なお土産品のルシヤ人形がその様子を表しています。「こけし」の北欧版ともいえます。何もないと、寒くて陰鬱な環境に負けそうになる冬の北欧で、住民が長年の習慣と知恵を生かして生活している一面を見せていただき、人間の営みの深さについて考えさせられました。

それぞれの地域風土にそった主イエス・キリストのご生誕を祝う行事があることを覚え、それぞれの地域とその風土にそった風習で主イエスのご誕生を祝いしたいと思います。

「愛がなければ 無に等しい」



大学宗教主任
村上みか

「たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持つていようとも、愛がなければ、無に等しい。」

（コリントの信徒への手紙一 十三章二節）

「私は、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。…なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を指してひたすら走るのです。」

（フィリピの信徒への手紙 三章十二―十四節）

十二月が近づくと街の中にもクリスマス

の準備が始まり、寒く暗い冬の日に温かな調子を与えています。キリスト教のことをあまり知らなくても、楽しく、幸せなひと時をクリスマスに期待している人も少なくないでしょう。友人や家族とともに食事をし、プレゼントをして、互いに思いやるひとときがもたれるなら、それもある意味、クリスマスにふさわしい時のもち方と言えるかもしれません。イエスは何よりも、「愛すること」を教えたからです。しかしイエスの教えた愛は、ただ楽しい時を作り出すことにとどまらず、その人の生き方を変えるほどの大きな変化をもたらし、時に困難を伴うものであるのです。

イエスは神を愛し、隣人を愛することを教えました。それは敵を愛し、自分を迫害する者のために祈ることを含むものでした。おそらく、誰にもできないことでしょう。人間というのは、悲しいことに自分のことしか見えない傾向をもっていて、そのような人間が集まった世界では、互いに理解し合うことは難しく、対立や争いが絶えないものです。そのような世界で平和を実現するためには、相手を受け入れるということ、つまり自分に向かってくる相手の憎しみを受け止め、悪の連鎖を断ち切ることを始めなければならぬのです。そして、それは決して不可能なこと

ではなく、神に心が開かれ、真実を思い、そのことよって自らの思いから解き放たれたとき、それは自然に実現されるものなのです。

このような愛に生きることは、私たちの世界では当たり前のことではありません。自らの幸福を願い、成功を求める生活の中では、愛を実現するのは難しく、そのような私たちにとって、愛に生きるということとは、それまでの価値観を覆し、その人の生き方を変えるほどの大きな変化を伴うものであるのです。先に記した聖書の箇所、コリントの信徒への手紙、フィリピの信徒への手紙を書いたパウロも、イエスを知ることによって人生の転換を経験した人でした。彼はもともと、イエスの教えた愛とは程遠い生活をしてきた人でした。彼はイスラエル民族の中でも名門部族の出身で、律法を守って正しく生き、そのことよって社会からも評価を受けて、誇り高く生きていました。そして、自分たちの体制を脅かすキリスト教を絶滅させようと、熱心に迫害していたのです。しかし、あるときパウロはイエスを知り、それまでの生活をすべて捨て、キリスト教の伝道者に転身しました。イエスの教える愛を知って、それまで自分が力を注いできたものが、いかにはかなく、取るに足りないものであるかに気がついたのです。家柄や名譽、知識や正しさを誇る生き方は、一般には羨ましが

られるものかもしれませんが、パウロはイエスを知った後には、これらを「塵あくだ」と見なすようになり（フィリピの信徒への手紙 三章四―十一節）、どれほどの知識も正しさも、愛がなければ無に等しいと語るまでになります。そして彼は自らを誇る生き方を捨て、自らを献げる生き方へと変えられていったのです。このことにより、今度は自分が迫害を受ける側となりますが、パウロはその中でも希望をもち、迫害する者のために祈り、人の貧しさを自分のものとして引き受けるという愛のあり方を説いてゆきました。そして、それを世界に広めるべく、全身を前に向けてひたすら走っていったのです。

それほどまでに、イエスの教えた愛はパウロにとつて何ものにも代えがたいものでした。自らの幸福のみを見つめる生き方は、自分のためでありながら、それほどには満足感を与えないことを知っていたのでしよう。逆に人に開かれたあり方は、困難を伴いながらも、豊かさと充足を与えるものであることを、パウロは経験したのだと思います。クリスマスは、このような深い愛が教えられ、与えられたことを感謝するときは、クリスマスはこのとき、自らを献げるあり方を知り、そのために私たちが自身が変わってゆけることを祈りたいと思います。

各キャンパスのメッセーじ

Tzumi

泉キャンパス

大学宗教主任

永井 義之



年の瀬が迫ってくると、町の灯りも派手さを増してクリスマス飾りがあちこちに見られる景色となります。キリスト教にとつてクリスマスの行事は当たり前だろうと思われるかもしれませんが、実際クリスマスが祝われるようになったのは紀元三世紀ごろからであるといわれます。当初、キリスト教にはクリスマスがなかった！クリスマスが祝われるようになった大きな理由は、イエス・キリストが肉体をもって現われたことを否定する異端の教えに対抗するためであったと言われます。

クリスマスはキリストの誕生を祝うものですが、それは今日の、誰にもある誕生日を祝うことと同じという訳ではなさそうです。「メリー・クリスマス」、「クリスマスおめでとう」と言葉を交わすのは、誕生日だからめでたいというのではなく、神の子キリストがメシアとして人となりたもつてわたしたちのただ中に現れたということなのです。今年、すべての人々の上にクリスマスの祝福がありますように。

Tagazyo

多賀城キャンパス

大学宗教主任

北 博



十二月に入るとめっきり寒くなりますが、その頃からアーケードや街角のあちこちではイルミネーションが点滅し始め、クリスマス・ソングが流れます。この季節は何かうきうきそわそわしてしまいます。クリスマスは日本社会にすっかり溶け込んだようですが、今もなお世界中のキリスト教会にとつて大切な行事です。クリスマスは十二月二十五日で、それはイエス・キリストの降誕を祝う日です。この日は普通、各家庭でお祝いします。教会では通常その前の晩に、ろうそくを使った礼拝が行われます。これが前夜祭、つまりクリスマス・イヴです。クリスマスは二十四日ではありませんので、お間違えのないように。

ところで、大災害の後でクリスマスを祝う気持ちにならない人も多いでしょう。ただ、今もなお世界中で様々な災害や戦争や人権弾圧が絶えない中でも、私達に一筋の希望が与えられていることを確認する時と考えてはどうでしょうか。

Tsuchitoui

土樋キャンパス

大学宗教主任

佐藤 司郎



今年も——そう、特別いろいろのことがあった今年も、クリスマスを迎えることができた。それは確実に私たちのところにやってきた。何という喜びであろう。それは神が私たちと共におられることしるし。

いま私は、一七世紀オランダの巨匠レンブラントの油彩『羊飼いたちの礼拝』をながめている。画面中央やや右下にヨセフのもつらんに照らされて輝く幼子イエスが描かれている。周りを囲むマリアとヨセフ、そして近くから駆けつけてきたような貧しい農民たち、それに遠くからやってきた羊飼いたちも加わり、彼らの顔は幼子の光にほの暗く照らし出されている。ここには天使も天上の音楽もない。しばしば描かれる牛も口バ（イザヤ一三〇）もない。静かな静かな夜！

さて皆さんも、この機会にクリスマスの名画に親しみ、聖書の世界に思いを巡らしてはどうでしょうか。



1 クリスマスって何ですか？

クリスマス（キリストのミサ）とは、イエス・キリストの誕生を祝うためのミサ（典礼もしくは礼拝）のことです。どうして、イエス・キリストの誕生が、クリスマスとして特別に祝われるのでしょうか。

第一に挙げられる理由は、神が人となられたという出来事だったからです。即ち、被造物の世界において、換言するならば、人間の五感で認知し思考できる世界において、神が人間と出会われた出来事だからです。

第二に挙げられる理由は、旧約聖書の預言者たちが待望していた救い主（メシア）の誕生だったということです。それは、

贖いの業（十字架の出来事）によって人間の罪を赦すという救いを実現する神の子の到来でした。ペトロの手紙は、そのことを「イエス・キリストは）十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました」（ペトロ二章二四節）と証言しています。

六世紀の修道僧ディオニシウス・エクシグウスは、聖書に記載されている年代とローマ皇帝の治世年数とを累積対照することによって、イエス・キリストの誕生の年数を割り出し、それを境に歴史を紀元前(B. C. = Before Christ)

と紀元後(A. D. = Anno Domini)に二分しました。それほどに、イエス・キリストの誕生は画期的な出来事だったので。

皆さんは、クリスマスをどのように理解しているでしょうか。それは、クリスマスの日は何をするかで明らかにされます。プレゼントを交換する、みんなで楽しくパーティをするなど様々でしょう。今年のクリスマスは、東北学院大学の礼拝堂やキリスト教会で行なわれるクリスマス礼拝に出席し、本当のクリスマスの意味を体験していただきたいと思えます。

世紀にかけてキリストの受肉と人格に関する論争があり、キリスト養子論の、異端説を退けるために、キリストは神の御子として誕生されたことが東西両教会で強調されたという事実です。つまり、クリスマスを十二月二十五日に祝うということは、「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった」（ルカ二・十一）という、神の御子が人間の形をとり（受肉）、私たちの近くにおいてくださったことを意味します。

2 なぜ 12月25日がクリスマスなのですか？

四世紀ローマ帝国の国教となったキリスト教は、その後ローマ帝国が東西に分裂したのに伴い、ローマを中心とする西方教会とコンスタンチノーブルを中心とする東方教会に分かれました。クリスマスの祝い方においても両者の間に違いが生じてきました。

西方教会（ローマ・カトリック・プロテスタント）の伝統では、三世紀の末頃からキリストの誕生日として守られて来ました。東方教会（ギリシャ正教系）

では四世紀頃から一月六日公現日に降誕を同時に祝って来ましたが、西方教会との調整を経て、十二月二十五日には異邦人への救い主到来を祝うようになりました。

なぜ十二月二十五日なのかについては、古代教会で考えられていた独特の歴史観にもとづく日にちの算定があるようです。また、冬至に近いことから異教の「太陽の誕生」祭に対抗して「義の太陽」（＝キリスト）の出現を祝ったものであるとも言われますが確かなことはわかりません。ひとつ確かなことは四世紀から五

キリスト教 Q & A



3 クリスマスはキリスト教の他の行事と比べてどのくらい重要なのですか？

キリスト教の主要な行事は、イエス・キリストの生涯に由来しています。例えば、イエス・キリストの誕生を祝うクリスマス（降誕日）、東方の占星術者たちが訪れて主イエスを礼拝したことを記念する公現日（顕現日）、復活日の四〇日前の水曜日（六回の日曜日を除く）を灰の水曜日、また、この四〇日間を四旬節（受難節、レント）と呼び、特に、四旬節最後の週を受難週（Passion Week）と呼んでいます。受難週の金曜日は、イエス・キリストが十字架につけられた聖金曜日（Good Friday）、次の日曜日

は復活日（イースター）です。復活日から五〇日目の日曜日に聖霊が降り、教会が誕生しました（聖霊降臨日＝ペンテコステ＝五旬祭）。このようなキリスト教行事を織り込んだ暦を教会暦と呼んでいます。この暦は、クリスマス前の四主日を含む一月六日までの期間である待降節（アドヴェント）の第一主日から始まりま

す。さて、教会暦と直接関係しない行事もあります。聖餐式、洗礼式、幼児祝福式、母の日、花の日、収穫感謝日、婚約式、結婚式、葬式、昇天者記念式などです。いずれの行事も意義深いもので、その重要さに優劣をつけることは難しいことです。しかし、強いられるならば、クリスマスとイースターを双壁として挙げることができるでしょう。特に、クリスマスは、東北学院大学の学事暦の中においても公にされており、大学クリスマス礼拝としてまもられています。

4 大学でのクリスマス礼拝ではどのようなことをするのですか？

十二月、冬休みを前に大学の講義も終了に近づく時期、大学クリスマス礼拝が各キャンパスでおこなわれます。特別な礼拝と位置づけられ、春、秋の特別伝道礼拝のように、時間的にも毎日の礼拝の時間枠に加えて二時間目の時間も使ってクリスマス礼拝が行われます。この日には特別講師によるクリスマスメッセージと特別編成の学生合唱団による「メサイア」（ヘンデル作曲）が演奏されます。

この礼拝が毎日の礼拝と異なるところは、礼拝のなかで献金があることです。十二月、冬休みを前に大学の講義も終了に近づく時期、大学クリスマス礼拝が各キャンパスでおこなわれます。特別な礼拝と位置づけられ、春、秋の特別伝道礼拝のように、時間的にも毎日の礼拝の時間枠に加えて二時間目の時間も使ってクリスマス礼拝が行われます。この日には特別講師によるクリスマスメッセージと特別編成の学生合唱団による「メサイア」（ヘンデル作曲）が演奏されます。

世間一般でも年末助け合いなど、この時期に寄付を募っていますが、私たちも礼拝で集めた献金を、援助を必要とするさまざまな福祉施設やNPO団体、個人にその働きを助け励ますために送金しています。送金先及び送金額の詳細は、翌年一月発行の東北学院時報に掲載し報告させていただきます。大部分の一年生諸君にとっては、東北学院に入って初めてのクリスマス礼拝を今回迎えることと思います。いままで経験して来たクリスマスと大学で経験するクリスマス礼拝に違いはあるのでしょうか。ぜひ、クリスマスメッセージを通して本来のクリスマスとは何であったのかを

確認していただきたいと願っています。また、献金を通して、私たちのわずかな献げ物であっても、それが必要とする人々に届けられ喜んでいただけるのは、このクリスマスの喜びのときにふさわしいものです。いままではクリスマスプレゼントといえば「受ける」だけのものでしたが、本当に必要としている人々に「与える」ことを学ぶのも、このクリスマスが意義あるものとなるのではないでしょうか。

「また主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すように・・・」（使徒言行録二〇：三五）

2011年度 宗教部の活動

通年

大学礼拝

礼拝(朝) 土樋・泉・多賀城キャンパス

月～土曜日

礼拝(夜) 土樋キャンパス

毎週水曜日

寄宿舎礼拝

泉女子寄宿舎

毎週月曜日

泉寄宿舎・旭ヶ岡寄宿舎

毎週火曜日

聖書研究会

土樋・泉・多賀城キャンパス

宗教部会

毎月

四月

『大学礼拝・チャペルニュース』
二六号(新入生歓迎号) 発行

二〇二キリスト教活動の
ハンドブック発行

五月

春季宗教教育強調週間
特別伝道礼拝

(東日本大震災にともない中止)

第十六回スプリングカレッジ

(二十一日)

六月

礼拝奉仕者懇談会

・土樋 (二日)

・多賀城 (二日)

・泉キャンパス (三日)

七月

キリスト者等推薦学生との懇談会
(十二日)

第三十四回

青山学院大学合同チャプレン会議

(東日本大震災にともない中止)

九月

第五十七回教職員修養会

(東日本大震災にともない中止)

八月

第三十七回サマーカレッジ

(十日～十二日)

十月

秋季宗教教育強調週間

特別伝道礼拝

・泉 (四日)

・土樋キャンパス「朝」(五日)

・多賀城 (五日)

・土樋キャンパス「夜」(五日)

・説教者 鈴木 眞 牧師

十一月

(日本基督教団 明石ホテル教会)

『大学礼拝・チャペルニュース』
二七・二八合併号

(サマーカレッジ・秋季特別伝道
礼拝特集号) 発行

十二月

第一二三回

泉キャンパスクリスマス(二日)

キリスト者等推薦学生との懇談会

(六日)

『大学礼拝・チャペルニュース』
二九号(クリスマス特集号) 発行

大学クリスマス

・泉・土樋キャンパス(十五日)

・多賀城キャンパス(十六日)

・説教者 雲然 俊美 牧師

(日本基督教団 秋田桜教会)

二〇二二年

二月

礼拝オルガニスト懇談会(十三日)

礼拝司会者(牧師・宣教師)懇談会
(十三日)

第十六回キリスト者教員研修会
(十六日)

三月

大学礼拝説教集 第一六号発行
研修会・修養会発題報告集発行

編集後記

一年生の皆さんにとっては大学生として初めてのクリスマスを迎える時期となりました。キリスト教を文化的背景として持っている国々で盛大に祝われることはご存じのとおりです。キリスト教を建学の精神とする東北学院大学にあってクリスマスを祝うことには特別な意味があります。この大学のバックボーンをなす精神を理解する意味でも、今までにはないクリスマスを迎えてほしいと願っています。(NA)

二〇二二年十二月 東北学院大学宗教部
〒980-0185
仙台市青葉区土樋二丁目三番一号